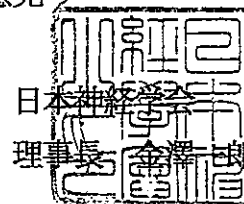


平成15年3月20日

関係各位

ホームヘルパーの吸引の可否に関する日本神経学会の意見



筋萎縮性側索硬化症などのいわゆる神経難病患者や高齢者の診療・介護指導について、神経内科医の関心は高く、本学会内でしばしば意見交換が行われ、本学会診療向上委員会でもとりあげられ、学会としてもより一層の努力をする所存です。

この度、本学会の新潟地区会員および本学会理事・東京大学医学部神経内科辻省次教授からの発案で、ホームヘルパーの吸引行為について学会内で議論をいたしました。現状では、これらの行為は医師・看護師が行うとされておりますが、実情は当該患者さんの医療を担当をする医療機関で指導をうけた家族・ボランティアが、訪問看護師とともにっております。むしろ、訪問看護師は比較的短い一定時間しか現場にいることができない状況から、夜間を含めて多くの時間帯を家族やボランティアの人たちが介護を担っていると認識しております。この状況は、仮に看護師を増員したとしても、それでも家族やボランティアにかかる負担の大幅な軽減は困難と推量する次第です。

吸引行為により起こりうる危険についても議論しましたが、適切な指導を受けておれば、特例療養者（出血傾向のある方、狭窄のある方など）を除き、特別の医学知識・技術がない非医療関係者でも安全にできると考えます。

このようなことから、本学会として次の建議をしたいと思います。

- ①在宅療養者の看護に際し、適切な指導をうけたホームヘルパーは、担当する療養者に限り吸引を行うことができる。
- ②吸引を行うホームヘルパーは、変化・異常・不審点などにつき適宜看護師、主治医に報告、その指導を受ける。

宜しくご考察いただき、ホームヘルパーの吸引行為が一定の条件のもと可能とできますよう要望致します。

以 上